

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2845 号

Safety and short-term efficacy of preoperative FOLFOX therapy in patients with resectable esophageal squamous cell carcinoma who are ineligible for cisplatin

シスプラチン不適な切除可能食道扁平上皮癌患者に対する術前 FOLFOX 療法の安全性と短期的な有効性

角埜 徹 (かどの とおる)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文はシスプラチン不適な切除可能食道扁平上皮癌患者に対する術前オキサリプラチン、フルオロウラシル、ロイコボリン (FOLFOX) 療法の高い忍容性と良好な短期的有効性を報告し、臨床的疑問に対する一つのエビデンスを示した。

【新規性、創造性】 高齢者や腎機能低下のある患者はシスプラチンに対し、その高度催吐性や腎毒性のため不適と考えられる。シスプラチン不適な切除可能局所進行食道扁平上皮癌に対する術前化学療法の安全性や有効性に関する報告は乏しい。本論文はシスプラチン不適な患者に対する術前 FOLFOX 療法の安全性と有効性を初めて明らかにした。

【方法・研究倫理】 2019 年から 2021 年の間に国立がん研究センター中央病院で術前 FOLFOX 療法を受けたシスプラチン不適な切除可能食道扁平上皮癌患者を後方視的に検討した。術前化学療法中の有害事象、完全切除割合、病理組織学的奏効を評価した。

【学術的意義】 35 例の患者のうちシスプラチン不適な理由は腎機能障害が 74%、75 歳以上が 69%、心機能障害が 17% だった。グレード 3 以上の有害事象として好中球減少症が 60%、白血球減少症が 29% にみられたが、グレード 3 以上の食欲不振と吐き気はそれぞれ 1 例 (3%) のみだった。完全切除割合は 87%、病理学的完全切除割合は 16% だった。

【考察・今後の発展】 術前 FOLFOX 療法はシスプラチン不適な切除可能食道扁平上皮癌患者に対し高い忍容性と良好な短期的有効性を認めた。今後は多施設後ろ向き研究や前向き研究など、さらに高いエビデンスを構築していく予定である。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。